

かび毒検査の信頼性確保のための外部精度管理

【成果の特徴】

国内でデオキシニバレノール（DON）およびニバレノール（NIV）の検査を実施している検査機関を対象として、小麦試料を用いた外部精度管理を行うことにより、検査機関において報告される結果の信頼性確保に貢献できました。

【成果の内容】

DON および NIV を含有する汚染小麦と非汚染小麦を混合することによって、作製した調査試料を用いて、国内の検査機関を対象として外部精度管理を行いました。経年的な観察を行った結果、時折、異常値を報告する検査機関があるものの、連続して異常値を報告することはない、概ね検査結果は良好でした。また、異常値を報告した機関の中には、本外部精度管理の報告書の指摘に従って検査法を改善した機関もあり、検査精度の向上に貢献できました。

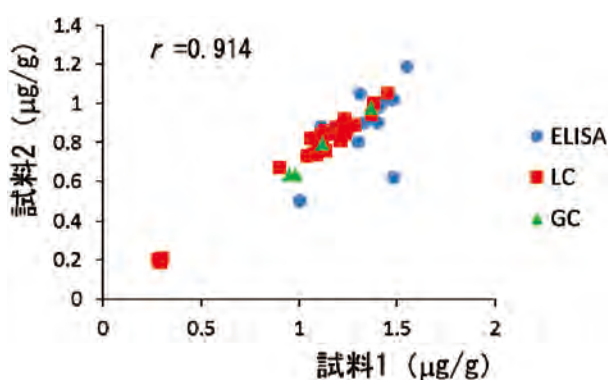


図1 平成24年度におけるDON検査における試料間の相関性（例）

低めの値を報告した検査機関が存在するものの、検査結果には高い相関性が認められました。

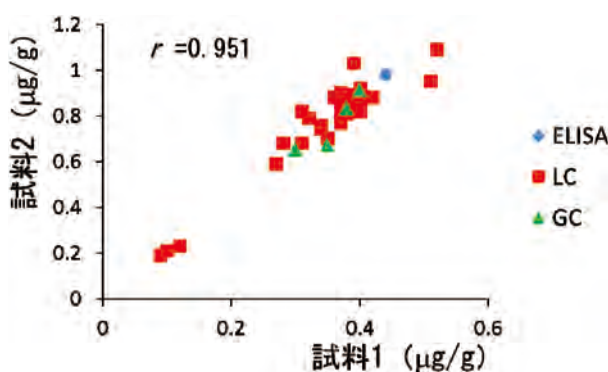


図2 平成24年度におけるNIV検査における試料間の相関性（例）

DONと同様に低めの値を報告した検査機関が存在するものの、検査結果には高い相関性が認められました。

【研究担当者氏名（所属機関名）】

渡辺卓穂・鈴木達也・笠間菊子・小熊恭代（食品薬品安全センター秦野研究所）